

川越市 地震ハザードマップ

〈保存版〉

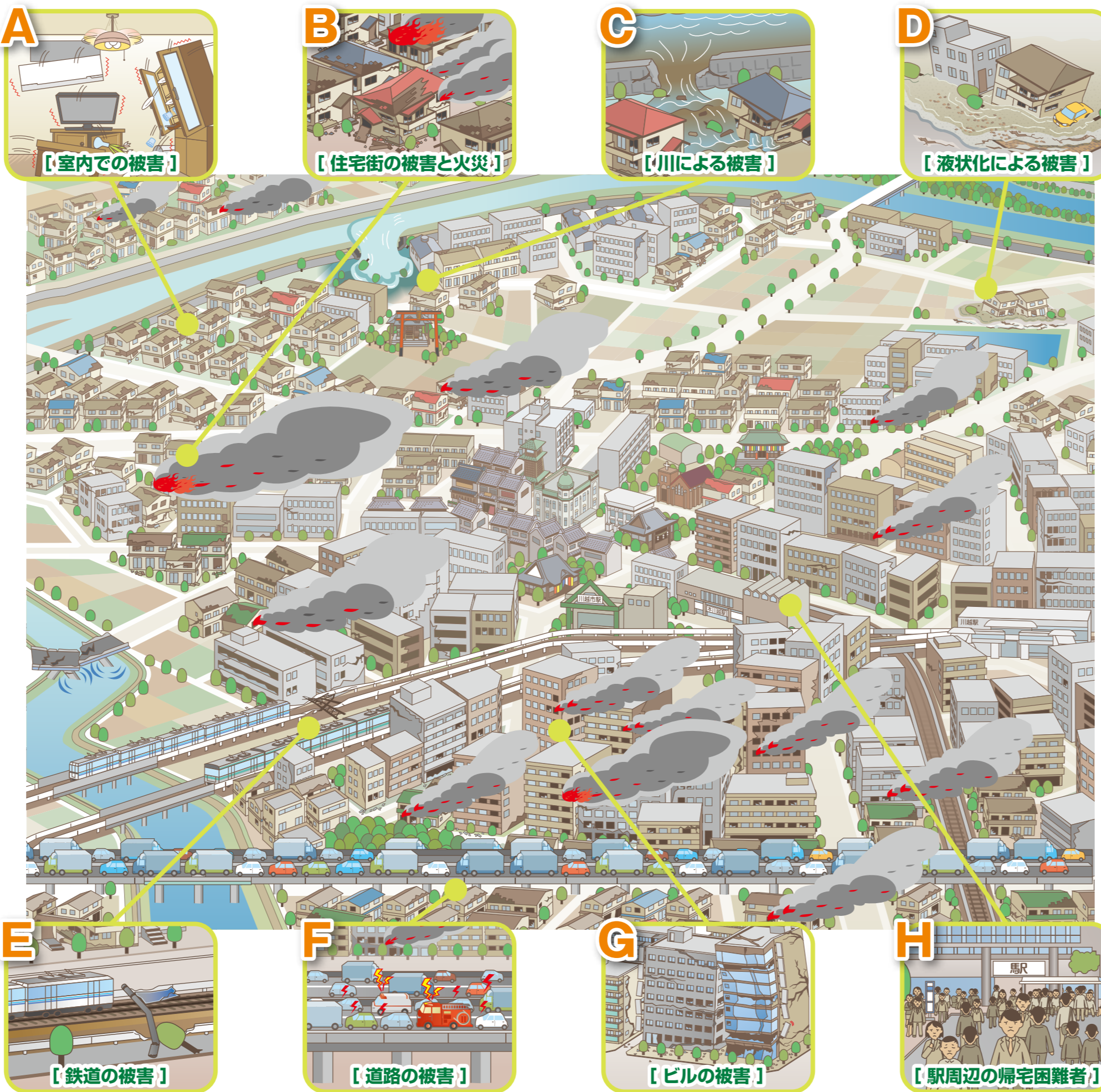


いざという時に、備えて安心。ご家庭でも防災対策を!

地震ハザードマップとは、地域への影響が大きい地震を想定し、震度や、地域の建物被害の発生割合を予測して避難場所の情報などと合わせてマップに示したものです。このマップを利用して、住宅の耐震化・家具の固定などの防災対策や地震発生後の避難などに役立てましょう。

発行：川越市 防災危機管理室 電話：049-224-8811(代表)
 発行日：平成27年11月 049-224-5554(直通)
 増刷：平成28年5月

大地震が起きるとどうなるの？



※このイラストはイメージです

大地震が発生した場合、以下のような被害が発生するおそれがあります。

- A 【室内での被害】**
地震のゆれにより、固定していないタンスや本棚などの大型家具・電気製品が転倒・落下します。
- B 【住宅街の被害と火災】**
耐震性の低い建物は倒壊します。また、住宅密集地では複数箇所と同時に火災が発生し、延焼により大規模火災となる場合があります。
- C 【川による被害】**
堤防が壊れ、浸水することがあります。
- D 【液状化による被害】**
川沿いの低地などでは、液状化による建物被害や道路被害、水道などの埋設物被害が発生します。
- E 【鉄道の被害】**
地震のゆれによって線路が変形し、運行できなくなり、運行の再開までに時間がかかります。
- F 【道路の被害】**
高速道路や国道は交通規制などにより渋滞が発生します。一般車両の渋滞が、消防車や救急車など緊急車両の救急・救助活動を妨げる原因となります。また、倒壊した建物や橋の崩落により道路が寸断されます。
- G 【ビルの被害】**
ガラスや外壁、看板などが落下したり、建物が倒壊したりします。
- H 【駅周辺の帰宅困難者】**
鉄道やバスなどの公共機関が運休すると、多くの人が、駅などに滞留します。中には自宅に戻るできない帰宅困難者も発生します。

地震が起きたら 地震時の行動チャート

ゆれたら、落ち着いて行動を!

大地震が発生したときは、慌てて行動すると命取りになります。落ち着いて行動するために、「行動チャート」を参考に、地震後の行動をイメージしましょう。

地震発生

▼ 行動チャート

- ゆれを感じたら**
 - 頭を守る 机の下などへもぐる。倒れてくる家具や落下物に注意。
 - 脱出口を確保する ドアや窓を開けて、逃げ道を確認。
- ゆれがおさまったら**
 - 火の始末をすばやく コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。出火があれば、落ち着いたら初期消火。
 - 家族の安全を確認する 家具などの下敷きになっていないかを確認。落ち着いたら、離れた家財には「1711」などで確認。
 - 逃げる準備を 非常持出品を手に取り、ガラスの破片が散乱している場合もあるので靴をはく。
- 余震に注意しながら**
 - 隣近所に声をかける 初期消火や要配慮者の安全確保。
 - 出火防止に近所で協力する 消電やガス漏れにも注意。
 - プレーカーを落とす 消電火災を防止。
- 1~3分後**
 - 緊急地震速報とは**
「最大震度が5以上」のゆれが予測された場合に発表されます。地震のゆれを震源近くの地震計がとらえ、震度などを予測し、素早く知らせる予報や警報のことです。全国瞬時警報システム(Jアラート)を用いた防災行政無線による放送のほか、テレビラジオ、携帯電話などで、緊急地震速報を見聞させてから、数秒から数十秒後に地震が到達します。この短い間に身を守る準備をしましょう。
※緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わない場合があります。
- 3~5分後**
 - デマに惑わされないように**
 - 情報を集める テレビ、ラジオ、インターネットなどで正しい情報を得る。
 - 避難する場合はなるべく徒歩で 基本的に車は使わない(渋滞になると身動きがとれなくなる)
- 5~10分後**
 - 協力して消火・救出・救護活動 隣近所と協力して消火や救出を。
- 10分後~数時間**
 - 協力して行動する
 - 余震に注意する
 - 壊れた家には入らない
 - 水、食料はたくわえているものでまかなう 災害発生から3時間、被災地外からの応援は期待できない。

避難勧告・避難指示等の伝達手段
 防災行政無線、緊急速報メール(エリアメール)、防災情報メール、twitter、災害用プログなどにより伝達。

地震ハザードマップについて

大地震は、いつどこで発生してもおかしくありません!

この「川越市地震ハザードマップ」は、「平成24-25年度埼玉県地震被害想定調査」によって想定された5つの地震のうち川越市に最も影響のある「関東平野北西縁断層帯地震(破壊開始点:南)」が発生した場合に、ゆれや建物被害がどの程度になるかを想定し、次の3種類のマップに図示しています。

- 予想される震度を表した「ゆれやすさマップ」
- ゆれにより予想される建物の倒壊率を表した「地域の危険度マップ」
- 液状化の危険度を表した「液状化危険度マップ」

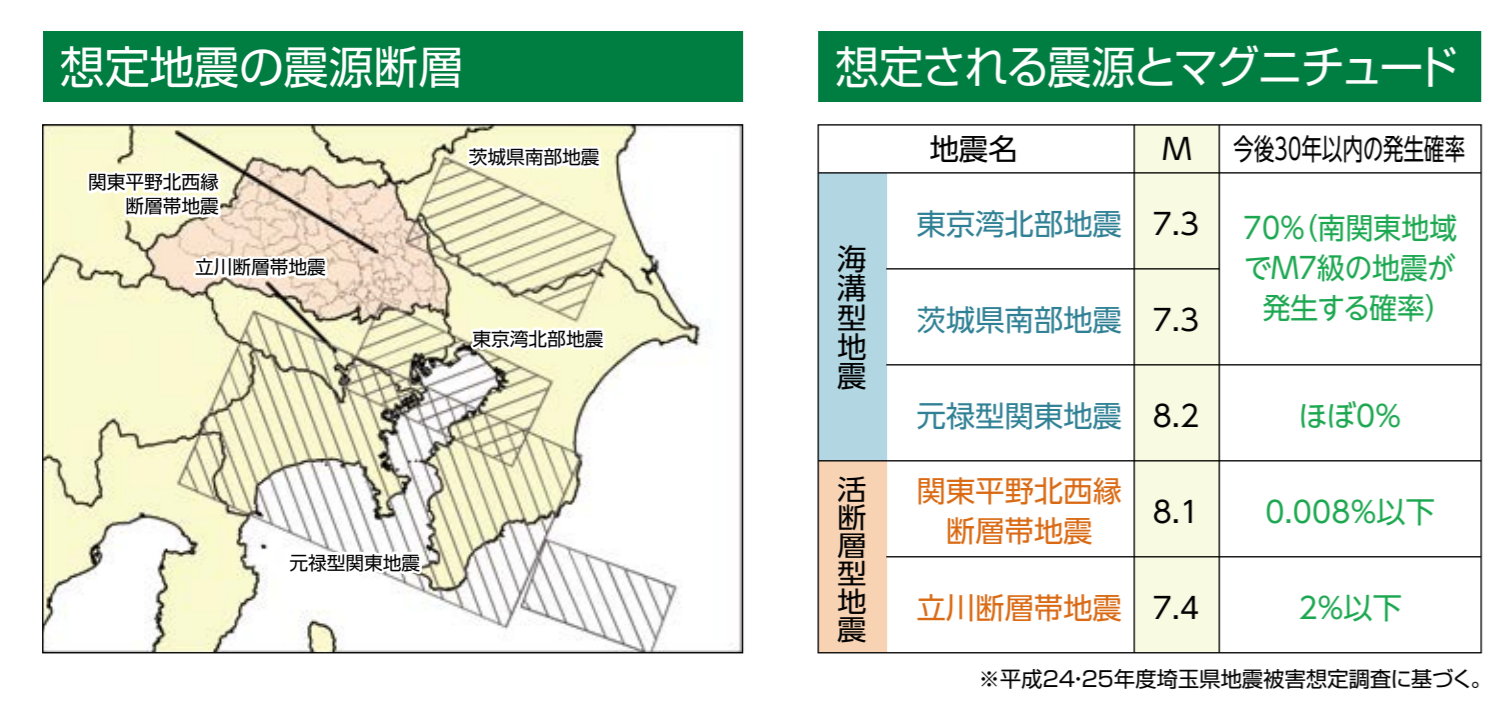
大地震は、いつどこで発生してもおかしくありません。私たちは、地震の発生を防ぐことはできませんが、建物の耐震化や家具の固定など、地震に対する事前の備えを行うことで、被害を小さくすることは可能です。いざというときに備えて、このマップで自分の住んでいる場所や地域の危険性を確認し、地震に備えておきましょう。

活用のしかた

家族で話し合い

まちあるきによる危険箇所の確認

地域での防災活動



地震に備える

被害を防ぐ

阪神・淡路大震災の死因の8割は、家の倒壊や家具等の転倒による圧迫死です。事前の対策を十分に行うことが重要です。

安全な家になろう!

- 屋根の補強や軽量化
- ベランダにある植木鉢などの整理整頓
- ブロック塀の点検

- 柱と梁の接合部の補強
- 壁の補強
- プロパンガスのボンベを鎖で固定

川越市の助成制度

- ▶ 無料耐震相談会
- ▶ 無料簡易耐震診断
- ▶ 耐震診断補助金制度
- ▶ 耐震改修補助金制度

耐震に関する問い合わせ先：川越市 都市計画部建築指導課 電話：049-224-5974

家の中を安全にしよう!

- 1字金具で壁に固定する! 重い物ほど下に入れる!
- ガラスには飛散防止フィルムをはる!
- 懐中電灯などは手の届く所に置く!
- テレビは金具やチェーンなどで固定する!
- 食器棚には滑り止めを付ける!
- 冷蔵庫などは転倒防止器具で固定する!
- 戸棚の扉にはロック機能を付ける!
- 吊り下げ式蛍光灯はチェーンなどで止める!

ライフライン被害・避難への備え

地震時には、電気、ガス、上下水道、通信設備が被害を受ける可能性があります。また、緊急時にはすぐに避難できるよう、日頃から災害に備えて準備しておくことが大切です。

事前に準備しておこう チェックしてみよう!

すぐに避難できるよう準備しておこう!

非常持出品

- 非常用食料・飲料水
- ラジオ
- 懐中電灯(予備の電池も用意する)
- 救急セット、常備薬、お薬手帳
- ヘルメット、防災ずきん
- 軍手
- 貴重品(現金、印鑑、預金通帳など)
- 携帯電話の充電器
- 生理用品、おむつ
- 新聞紙
- 運動靴

~なるべく用意しよう~

- 下着、着替え
- 毛布、タオル
- ビニール袋
- ライター、マッチ、ろうそく
- 使い捨てカイロ
- ウェットティッシュ
- メガネ、コンタクトレンズ(保存液)

ライフラインが復旧するまでの間、生活できるよう備えよう! (非常備商品)

- 3日分の食料・飲料水(推奨1週間分)
- 簡易トイレ
- トイレトレーニングペーパー
- カセットコンロ、予備のガスボンベ
- 簡易食器(紙皿、紙コップ、わりばし)
- 洗面用具(歯ブラシ、タオル、ドライシャンプーなど)
- キッチン用ラップ、アルミホイル
- 飲料水を貯めるポリタンク
- 工具類(ロープ、パール、スコップなど)

<赤ちゃんがいる家庭>
ミルク、ほ乳びん、おむつ、おんぶひも、ミネラルウォーター、防寒着、帽子、衣類、バッグなど

<高齢者や身体の不自由な方がいる家庭>
常備薬、看護補助具、おむつ、予備の補聴器、障害者手帳など

※各個人にあった備品を考え、備えましょう。

登録しておこう!

「避難所開設状況」などの災害関連情報が入手できます。
川越市防災情報メール配信サービスへの登録方法

スマートフォン・携帯

登録用メールアドレスに空メールを送る。
 登録用アドレス: kawagoe_ml@sg-m.jp

QRコード対応の携帯電話は上のQRコードから空メール送信ができます。
<https://service.sugumail.com/kawagoe/member/> にアクセス

避難の留意点

階段から避難

避難時は、エレベータを利用せず階段から避難しましょう。

安全な服装

長袖、長ズボンなどの安全な服装を着用し、建物のそばを避けましょう。

出火防止の確認

避難する前にもう一度、火の元やブレーカーを落とすか確認しましょう。

足もとに注意

電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意しましょう。

安否情報を知らせる

玄関などに、避難先や安否情報を記したメモを貼っておきましょう。

家族のメモ

我が家の避難場所		災害時の緊急避難先	
		※確実に連絡の取れる親類・知人など	
家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校
		名称	TEL
		名称	TEL
		名称	TEL
		名称	TEL

ラジオ局 災害用伝言ダイヤル

ラジオ局周波数	
NHK第1	AM 594kHz
TBSラジオ	AM 954kHz
文化放送	AM 1134kHz
ニッポン放送	AM 1242kHz
NACK5	FM 79.5MHz

「NTT災害伝言ダイヤル」の使い方

① 伝言を登録する場合(音声案内があります)
 [171]をダイヤル→音声ガイドに従い[1]をプッシュ
 →049-xxx-xxx(被災者の電話番号)

② 伝言を聞く場合(音声案内があります)
 [171]をダイヤル→音声ガイドに従い[2]をプッシュ
 →049-xxx-xxx(被災者の電話番号)

詳しくは <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

